

大原 寛史 先生

先生のプロフィール

【出身地】

千葉県生まれ、三重県育ち

【専攻】

民法

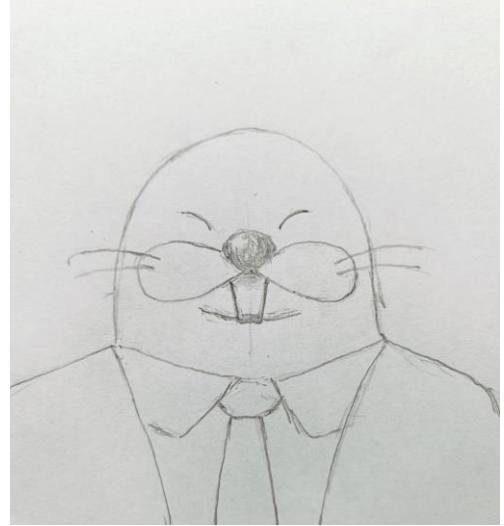
【近年(2~3年)の担当科目】

契約法 A、債権法総論、各学年のゼミなど

【☆自由質問欄☆】

☆よく似ているといわれるのは？

A.カビゴン、チョロプー



先生へのインタビュー！

Q1 民法に興味を持ったきっかけや民法の魅力について教えてください！

A: 民法は、市民どうしの関係を規定しています。市民どうしのトラブルには「どちらが正しい／悪い」ものよりも「どちらも正しい／悪くない」ものを「どのように調整するか」というものが多いと思います。そのトラブルを民法のルールを用いて解決するにあたっては、トラブルの当事者のみならず、それ以外の者にも納得してもらえるような調整の理論と結論の妥当性が求められるところ、また、その実現のために様々な観点からの精緻な理論が考えられ、議論が展開されているところが、とても奥深いと感じたためです。そのため「オトナの学問」なんて呼ばれることも。まさにその点が魅力ではないかと思います。そんな「オトナの学問」の魅力を、皆様と一緒に学んでいきたいと思っています。

Q2 大原ゼミの特徴を教えてください！

A: よく「自由度が高い」と言われます。基本的に活動内容を参加者の皆様に決めていただくことが理由でしょう。もちろん「大学・法学部・民法のゼミ」という前提がありますが、その前提を活かすかたちで（ときにはみ出しながら？）どこまで面白く、楽しい方法で学習することができるかを考えていただいています。参加者の皆様が自分たちで考えて行動してほしいから、やらされることより自分たちでやることの方が大事だと考えているから、この2点に尽きます。せっかくの大学生活ですから、主体的に、積極的に学んでください。

Q3 学生時代に力を入れていたことや、学生時代の失敗、後悔を教えてください

A: 目の前にあることにとりあえずがむしゃらに取り組んでいた記憶があります。大学 1～2 年のころは、主にサークル活動やアルバイトを頑張っていました。3～4 年になると、そこにゼミ活動が加わる感じです。

もう少し落ち着いていろいろなことを考えながら取り組めばよかった……と後悔しています。とくに勉強面。お恥ずかしい話ですが、ゼミに参加して（だいぶたって）から法学の面白さに気づき、（まったく勉強ができていないのに）大学院進学を決め、（取り戻すことができない遅れを自覚して半泣きになりながら）勉強し……無計画・不器用なところが出ていますね（笑）皆様は私のような学生にならないようにしてください！

Q4 最後に学生にひとこと！

A: 既に記載したとおり、勉強面でもそれ以外の面でも主体的に、積極的に、そして、計画的に（！）取り組んでください。ときにしんどい、苦しいおもいもするでしょうが、その経験は必ず皆様の将来の貴重な財産となります。

★ プログレッシブ 大原 ゼミの実態！（2024 年度ゼミ生 27 名）

★ 大原寛史 先生のトリセツ

- ・ 明るい、親しみやすい
- ・ なんでも相談に乗ってくれる
- ・ 将来のことをしっかりと考えてくれる
- ・ 時に厳しく、時にやさしく、しっかり指導してくれる

日々や休暇中の課題

- 【日々の準備、課題】
- ・ 活動内容はゼミ生が決めるので、決まった活動内容に応じて準備内容は変わります。
（ex 民法すごろくの作成なら民法の問題を考え、ディベートなら主張や想定される相手方の主張に対する反論を考えます。）
- 【長期休暇課題】
- ・ ありません

活動内容

- ・ ゼミの活動内容は、ゼミ生が意見を出し合い、話し合って決めます
（2024 年度は民法すごろくや ADR などを行いました）。そのため、自主性や積極性が求められます。
- ・ ゼミ生の男女比は 1:2 で女性が少し多いですが、男女分け隔てなく楽しく活動しています。
- ・ グループワークが多いです。